

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN

ロシア・ソビエト映画祭

Russian and Soviet Film Festival

7月4日(火)ー7月30日(日)

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター、ロシア・ソビエト映画祭実行委員会

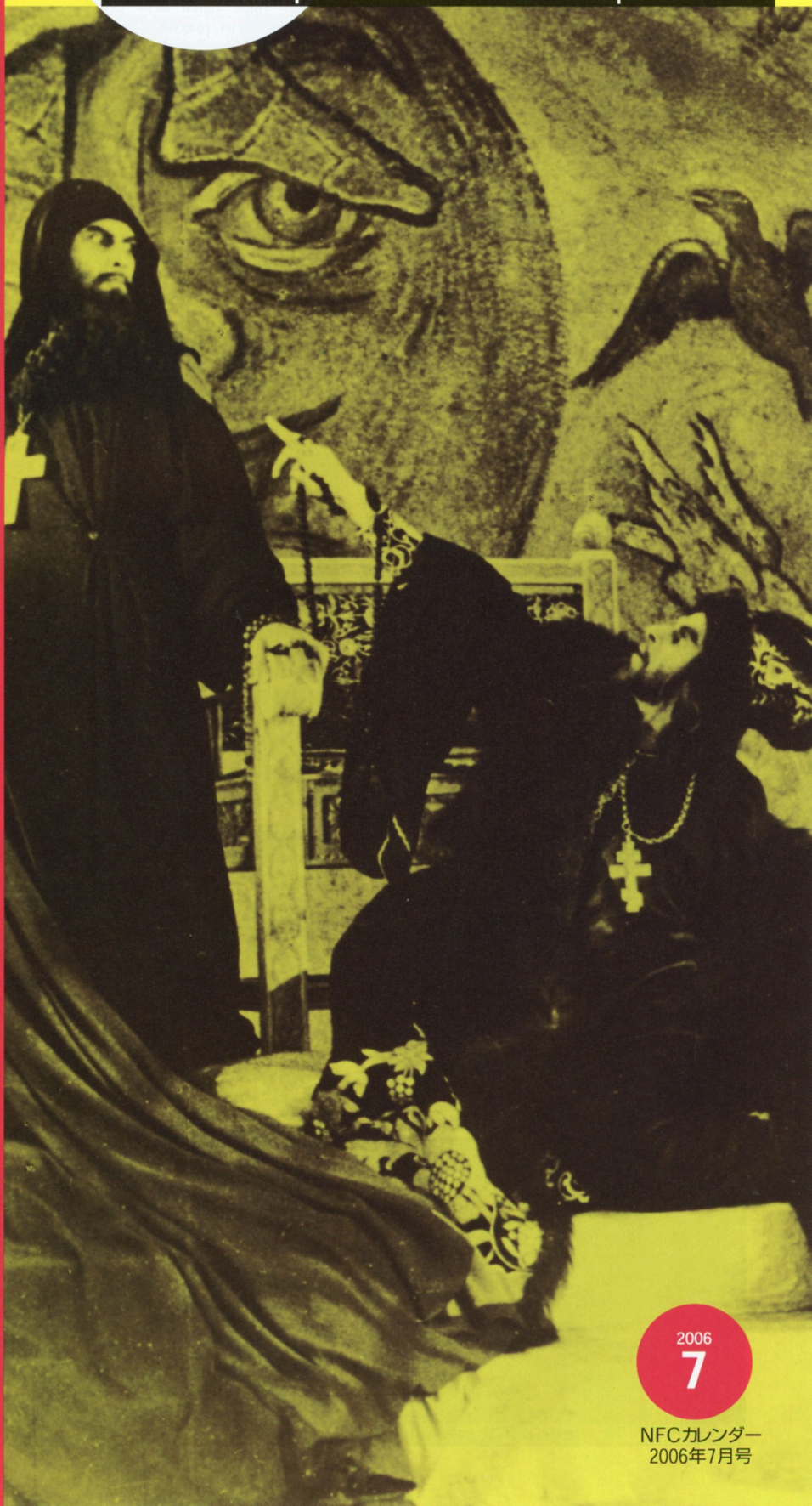


ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN

ロシア・ソビエト映画祭

Russian and Soviet Film Festival

Фестиваль российских и советских фильмов



7月の休館日：

月曜日

大ホール

開映後の入場はできません。

定員=310名(各回入替制)

発券=2階受付

料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/小・中学生100円

▶『戦争と平和』のみ一般1,000円/高校・大学生・シニア600円/
小・中学生200円

- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切となります。
- シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示ください。
- 発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

2006

7

NFCカレンダー
2006年7月号

大ホール 上映作品

ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN
ロシア・ソビエト映画祭
Russian and Soviet Film Festival

100年近く前に作られた初の国産劇映画『ステンカ・ラージン』とともに産声を上げたロシア映画は、ある時は野心的に、またある時は否応なく政治の試練と向き合いつつも、映画の可能性を真摯に追究し、世界の映画に芸術的影響を与えてきました。

日ロ国交回復50周年を記念する本年、「ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN」の一環として、フィルムセンターはロシア・ソビエト映画祭実行委員会と共催し、「ロシア・ソビエト映画祭」を開催することになりました。古くは『ステンカ・ラージン』から、最新作である『死という名の騎士』(2004年)と『宇宙を夢見て』(2005年)まで、両者の選定による、フィルムセンター所蔵作品も多数含まれた28本の作品を一挙に紹介します。上映作品としては、エイゼンシュテイン、ヴェルトフ、ブドフキンといった1920年代から1930年代のソビエト映画を代表する監督たちの名作はもちろんのこと、亡命ロシア人が多数出演した島津保次郎の『満州』映画『私の鷺』(1943年)、文豪トルストイの大河小説に基づいたボンダルチュクの『戦争と平和』(1965-67年)全4部も上映し、ロシア・ソビエト映画史の大きな潮流をたどるとともに、復活した「ロシア映画」としての新たな歩みにも着目してゆきます。

また、本映画祭を開催するにあたって、カレン・シャフナザーロフ監督やアレクセイ・ウチャーチェリ監督を含むゲストがロシアより来日し、舞台挨拶等を行う予定です。どうぞご期待ください。

フィルムセンターでは、本企画は1978年の「ソ連映画の史的展望」以来、28年ぶりの大規模なロシア・ソビエト映画の特集上映となります。この映画祭を通して、皆様にロシア・ソビエト映画の魅力を改めて味わっていただければ幸いです。

- 監 督 原 作 脚 本 撮 影 美 術 音 楽 出 演
- 本特集には不完全なプリントが含まれています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

◆ 新作ロシア映画

1 7/5(水)7:00pm 7/22(土)5:00pm
宇宙を夢見て (87分・35mm・カラー)
Космос как предчувствие
ソ連が人工衛星スプートニクの打ち上げに成功した1957年。“馬”というあだ名を持ち、恋人と港町のレストランで働く若者の自己探求を描くドキュメンタリー映画出身のウチャーチェリ監督は、本作でモスクワ国際映画祭の最高賞を受賞した。

2 7/4(火)7:00pm 7/22(土)2:00pm
死という名の騎士 (104分・35mm・カラー)
Всадник по имени смерть
20世紀初頭、動揺するロシア帝国を舞台に、政府高官の暗殺を狙うテロリストの心の闇を描く。実在したテロリストの自伝的小説『蒼ざめた馬』が原作になっている。ペレストロイカ期から話題作を送り出してきたシャフナザーロフ監督の最新作。監督は現在モスフィルム所長。

◆ ロシア・ソビエト映画名作選

3 7/5(水)3:00pm 7/23(日)3:00pm
ステンカ・ラージン
(12分・18fps・35mm・無声・白黒)
Стенька Разин
ロシア民謡「ステンカ・ラージン」の物語を、歌詞に基づいて映画化したロシア初の劇映画で、ロシア映画の発展の基礎となった。ロケーション撮影が捉えるヴォルガ河や森などの大自然の中で物語が展開される。

セヴァストポリの防衛
(52分・18fps・35mm・無声・白黒)
Оборона Севастополя
帝政時代のロシアを代表するハンジヨコフ社の製作によるロシア初の長篇映画。19世紀半ばのクリミア戦争で、ロシア軍がトルコ・イギリス・フランスの連合軍と戦った有名な戦闘を題材とした歴史スペクタクル映画。

4 7/6(木)3:00pm 7/18(火)7:00pm
ストライキ (95分・18fps・35mm・無声・白黒)
Стачка
ロシア帝国が衰退を見せる1900年代初期における、ストライキを起こす労働者たちと、工場幹部や警察側との争いがダイナミックに展開される。『戦艦ポチョムキン』のエイゼンシュテインによる、野心的なモンタージュ実験も見られる監督デビュー作。

5 7/6(木)7:00pm 7/19(水)3:00pm
母 (85分・20fps・35mm・無声・白黒) Мать
労働運動に参加する息子の投獄に手を貸してしまう母親。だが、母はその後息子の苦しむ姿を目にし、自らも運動に身を投じる。演劇的な演技を極めて重視したブドフキンは、本作品でも芸術座のベテラン俳優を起用した。

6 7/7(金)3:00pm 7/22(土)11:00am
ベッドとソファ
(71分・24fps・35mm・無声・白黒)
Третья Мецанская
若い夫婦のアパートに地方から出てきた夫の戦友が転がり込み、三角関係になった挙げ句に共同生活が破綻する。自立心を育む女性と旧態依然の男たちの対比の中に、当時のモスクワの市民生活がいまも生き生きと描き出される。原題は「第3町人通り」。

7 7/8(土)5:00pm 7/18(火)3:00pm
未来への迷宮 (102分・35mm・白黒)
Строгий юноша
原題は『厳格な青年』。人気作家ユーリー・オレーシャがシナリオを書き下したもので、ローム監督は超現実的な手法を用いて外科医夫人と若者の不倫を描写した。同時に、社会主義における“平等”の難しさを照らし出し、長らく公開禁止とされた。



戦争と平和

7 7/7(金)7:00pm 7/30(日)11:00am
トルブナヤ通りの家
(98分・16fps・35mm・無声・白黒)
Дом на Трубной
田舎から出てきた少女が、労働組合への参加を雇い主に知られて解雇される。だがその後少女と同名の女性がモスクワ市議会議員に当選した途端、雇い主のアパートの住人たちは態度を一変させるというコメディ。雇い主を演じた女優ウラジミール・フォーゲリは最後の映画出演である。

8 7/8(土)11:00am 7/19(水)7:00pm
人生案内 (101分・35mm・白黒)
Путевка в жизнь
戦争や革命で親を失った孤児たちの自立を願い、作業場づくりに取り組む青年が主人公。子どもの自立の補助や社会的障害をテーマにしたソ連初の長篇のトリーキー劇映画で、プロパガンダの要素も見受けられる。

9 7/8(土)2:00pm 7/20(木)7:00pm
レーニンのキノブラウダ
[キノブラウダ 第21号]
(23分・24fps・35mm・無声・白黒)
Ленинская Киноправда (Киноправда №21)
カメラという“機械の眼”で世界を捉えることの意義を主張し、多彩なカメラワークと編集操作を追究したヴェルトフの、時事的記録映画シリーズ(全25号)の中の第21号。レーニンの死去に際して作られた。

レーニンの三つの歌 (59分・35mm・白黒)
Три песни Ленина
レーニン没後10年記念の際、中央アジアやウクライナ東部の工業地域などを長期取材し、『レーニンのキノブラウダ』の素材も利用して作られた一本。3つのレーニンの讃歌とともに理想化されたソ連の映像が鮮明に映し出される。

10 7/8(土)5:00pm 7/18(火)3:00pm
未来への迷宮 (102分・35mm・白黒)
Строгий юноша
原題は『厳格な青年』。人気作家ユーリー・オレーシャがシナリオを書き下したもので、ローム監督は超現実的な手法を用いて外科医夫人と若者の不倫を描写した。同時に、社会主義における“平等”の難しさを照らし出し、長らく公開禁止とされた。

11 7/9(日)11:00am 7/20(木)3:00pm
十月のレーニン (101分・35mm・白黒)
Ленин в Октябре
翌年の『1918年のレーニン』と合わせて2部作をなす革命20周年記念作品。1917年のロシア革命の経緯を、臨時政府に対する大衆の抗議やレーニンの活動を名匠ミハイル・ロムがダイナミックに再現したもので、レーニンがユーモラスに描かれていることも特徴的。

月	火	水	木	金	土	日
						8 人生案内 11:00am (101分)
3	4 3 ステンカ・ラージン (12分) セヴァストポリの防衛 (52分)	5 3:00pm 7:00pm 1 宇宙を夢見て (87分) *ウチーチェリ監督の舞台 挨拶があります	6 3:00pm 95分 4 ストライキ	7 3:00pm 71分 6 ベッドとソファ	8 2:00pm 9 レーニンのキノブラウダ (23分) レーニンの三つの歌 (59分)	9 2:00pm 10 未来への迷宮 (102分)
	10 3:00pm 99分 14 イワン雷帝 第一部	11 7:00pm 85分 15 イワン雷帝 第二部	12 3:00pm 92分 16 諜報員	13 3:00pm 198分 19 私は20歳 *途中で休憩時間を設けます	14 1:00pm 425分 20 戦争と平和 *途中で3回の休憩時間を 設けます	15 2:00pm 143分 21 デルス・ウザーラ
7月	17 3:00pm 102分 10 未来への迷宮	18 7:00pm 95分 4 ストライキ	19 3:00pm 85分 5 母	20 3:00pm 101分 11 十月のレーニン	21 3:00pm 106分 12 ヴォルガ・ヴォルガ	22 2:00pm 104分 2 死という名の騎士
	23 7:00pm 149分 17 モスクワは涙を信じない	24 7:00pm 102分 22 五つの夜に	25 3:00pm 87分 18 誓いの休暇	26 3:00pm 143分 21 デルス・ウザーラ	27 3:00pm 95分 26 コーカサスの虜	28 11:00am 425分 20 戦争と平和 *途中で3回の休憩時間を 設けます
	29 3:00pm 99分 13 私の鷲	30 3:00pm 87分 21 誓いの休暇	31 3:00pm 92分 16 諜報員	32 7:00pm 88分 25 ストーン	33 11:00am 98分 7 トルブナヤ通りの家	34 2:00pm 99分 14 イワン雷帝 第一部
	35 7:00pm 102分 10 未来への迷宮	36 7:00pm 96分 18 誓いの休暇	37 7:00pm 87分 5 母	38 7:00pm 92分 1 宇宙を夢見て	39 5:30pm 88分 25 ストーン	40 5:00pm 99分 13 私の鷲
	41 3:00pm 99分 13 私の鷲	42 3:00pm 87分 18 誓いの休暇	43 3:00pm 92分 16 諜報員	44 7:00pm 88分 25 ストーン	45 11:00am 98分 7 トルブナヤ通りの家	46 2:00pm 99分 14 イワン雷帝 第一部
	47 7:00pm 149分 17 モスクワは涙を信じない	48 7:00pm 102分 22 五つの夜に	49 7:00pm 96分 18 誓いの休暇	50 7:00pm 92分 1 宇宙を夢見て	51 5:30pm 88分 25 ストーン	52 5:00pm 85分 15 イワン雷帝 第二部

■作品により開映時間が異なりますのでご注意ください。

展示室(7階)

【企画展】

生誕100周年記念
美術監督 水谷浩の仕事

Pioneering Art Director:
Hiroshi Mizutani at his Centenary

映画美術の草分けとして小津安二郎や豊田四郎、村田実の作品を担当し、後には溝口健二の国際的名声を支えた「美術監督」水谷浩(1906-71年)。そのデッサンや遺品、小道具を通して偉大なパイオニアの足跡と、映画における美術の仕事を概観します。

【常設展】

展覧会 映画遺産

—東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより—

The Japanese Film Heritage

—From the Non-Film Collection of the National Film Center—
フィルムセンターが開設から50年の間に収集してきたコレクションの中から特に珍しい初期の映画機械や映画人の遺品などを一堂に集めて展示する一方、過去に行われた映画の発見・復元の成果を紹介しながら、日本の映画保存運動の軌跡を振り返ります。

図書室カレンダー

赤字は休室日

7月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

図書室(4階) 開室=休館日以外の火曜日-土曜日
(午後0時30分-午後6時30分/入室は午後6時まで)

2階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイヴやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。



東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

4月4日(水)-5月28日(日)、6月6日(水)-9月24日(日)

開室=休館日以外の火曜日-日曜日

(午前11時-午後6時30分/入場は午後6時まで)

料金(企画展・常設展共通)=一般200円(100円)/

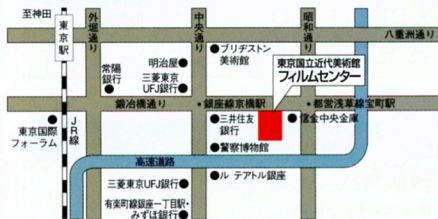
大学生・シニア70円(40円)/高校生40円(20円)

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 小・中学生は無料です。

* 大ホールで映画をご覧になった方は、当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

* シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示下さい。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京外環線京橋駅下車。出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車。出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京外環線有楽町線銀座一丁目駅下車。出口7より徒歩5分
JR東京駅下車。八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600

NFCホームページ:

<http://www.momat.go.jp/>

NFC携帯電話ホームページ:

<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

